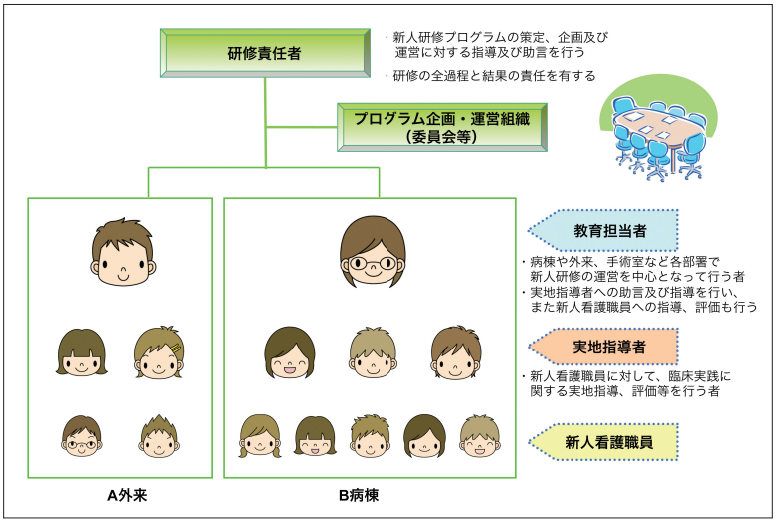
●助産技術についての到達目標●

		★	到達の目安			
妊産婦	①正常妊婦の健康診査と経過診断、助言	★				Ⅰ
	②外診技術（レオポルド触診法、子宮底・腹囲測定、ザイツ法、胎児心音聴取、（ドップラー法、トラウベ））	★				Ⅰ
	③内診技術	★				Ⅰ
	④分娩監視装置装着と判読	★				Ⅰ
	⑤分娩開始の診断、入院時期の判断	★				Ⅰ
	⑥分娩第１～４期の経過診断	★				Ⅰ
	⑦破水の診断	★				Ⅰ
	⑧産痛緩和ケア（マッサージ、温罨法、温浴、体位等）	★				Ⅰ
	⑨分娩進行促進への援助（体位、リラクゼーション等）	★				Ⅰ
	⑩心理的援助（ドゥーラ効果、妊産婦の主体的姿勢への援助等）	★				Ⅰ
	⑪正常分娩の直接介助、間接介助	★				Ⅰ
	⑫妊娠期、分娩期の異常への対処と援助	★			Ⅱ	
新生児	①新生児の正常と異常との判断（出生時、入院中、退院時）	★				Ⅰ
	②正常新生児の健康診査と経過診断	★				Ⅰ
	③新生児胎外適応の促進ケア（呼吸・循環・排泄・栄養等）	★				Ⅰ
	④新生児の処置（口鼻腔・胃内吸引・臍処置等）	★				Ⅰ
	⑤沐浴	★				Ⅰ
	⑥新生児への予防薬の与薬（ビタミンＫ２、点眼薬）	★				Ⅰ
	⑦新生児の緊急・異常時への対処と援助	★			Ⅱ	
褥婦	①正常褥婦の健康診査と経過診断（入院中、退院時）	★				Ⅰ
	②母親役割への援助（児との早期接触、出産体験の想起等）	★				Ⅰ
	③育児指導（母乳育児指導、沐浴、育児法等）	★				Ⅰ
	④褥婦の退院指導（生活相談・指導、産後家族計画等）	★				Ⅰ
	⑤母子の１か月健康診査と助言				Ⅱ	
	⑥産褥期の異常への対処と援助	★			Ⅱ	
証明書等	①出生証明書の記載と説明	★				Ⅰ
	②母子健康手帳の記載と説明	★				Ⅰ
	③助産録の記載	★				Ⅰ

新人看護職員研修における組織の体制

【研修体制における組織例】



新人看護職員研修における組織の体制例を図に示します。施設の規模によっては研修責任者と教育担当者、研修責任者と教育担当者と実地指導者が同一である場合もありますが、それぞれの役割を担う者が誰なのかを互いに認識できるような体制を作り、それを明確に示すことが必要です。

なお、研修の実施に当たっては、各施設の特性によって施設間で連携するなどの工夫が必要です。また、施設間での連携を推進するためにも各施設は院内研修を公開することなどが求められます。

研修方法

現場での教育（OJT）、集合研修（Off-JT）、自己学習を適切な形で組み合わせます。講義形式のものに関しては、通信教育やe-ラーニング研修などのITを活用した方法もあります。また、Off-JT→OJT OJT→Off-JTのスパイラル学習は効果があると言われていることから、Off-JTとOJTは研修目標に合わせて組み合わせることが適当です。